令和８年度　第２回　北杜市男女共同参画プラン策定委員会
【議事録】

１　日　　時　令和８年１０月１３日（火）１０：００～１１：３０
２　場　　所　北杜市役所本庁舎西会議室
３　出 席 者
　【委　員】藤森　修平、三井　久美子、清水　真理子、吉田　百加利、波木井　みゆき
　　茅野　秀明、小野　光一、原　かつみ、坂本　正輝、古屋　万恵
　　平井　ひろ江、津金　胤寛、渡辺　美津穂（敬称略）
　【事務局】企画部長　　切刀　智之
　　企画課長　　鷹左右　紀
　　企画課企画担当　白倉　健、堀内　健
４　欠席委員　中山　宏樹、吉澤　由里、埴原　志津香（敬称略）
５　会議事録署名　清水委員、吉田委員
６　公開・非公開の別　公開
７　傍　　聴　２名
８　会議内容
　１）　開会
　２）　委員長あいさつ
　３）　議事
　　（１）第２次男女共同参画推進プランの実施状況について
　　（２）市民アンケート調査について
　　（３）第３次男女共同参画推進プラン素案について
　４）　その他
　５）　閉会

９　会議経過
　１）　開会[１０：００]
　２）　委員長あいさつ
　３）　議事

　議事（１）　第２次男女共同参画推進プランの実施状況について
　　事務局から資料１「第２次男女共同参画推進プラン　事業実施状況一覧」について説明。委員からの意見・質問なし。

　議事（２）　市民アンケート調査について

事務局から資料２「市民アンケート調査　調査結果速報版」について説明。

（発信者）　　（内容）

委　員　　中高生と市民アンケート結果を比較できて良かった。市民向けアンケートと中高生向けアンケートで、問１「男女の地位の公平さ」について、国と県の調査では「公平」ではなく「平等」としているが、「公平」を使う理由は何かあるのか確認したい。

事務局　　前回の北杜市の調査でも、同様の設問において「公平」という表現を使用しているため、１０年前の調査結果との比較をするため、今回も同じ「公平」の表現で調査を実施した。

委　員　　感想だが、家庭内の家事で掃除、洗濯、食事の支度とあるが、家事の内容はそれだけではない。夫にやってもらうことは他にもある。

また、中高生のアンケートでは、出産後は子育てに専念して、子育てが落ち着いてから、職場復帰をするという意見が多いということを考えると、母親が忙しく働いている姿を見て、そう考えるようになったのかと感じた。

委　員　　事業所アンケートの「問１ワーク・ライフ・バランスの充実に向けた取り組み」の中の育児休業制度について、制度や取得方法を周知している事業所では、男性についても育児休業制度が利用できるという理解でよいのか確認したい。

事務局　　今回の事業所アンケートでは、育児休業制度の周知について男女別に確認できる設問としていないため、男性・女性それぞれについて制度がどのようになっているかまでは把握できない。

委　員　　男性の育児休業取得が進んできている一方で、父親が休業中に育児で何を担うべきか十分に理解されておらず、パチンコやゲームをして過ごしているケースもある。また、「父親がいると仕事が増える」という話も聞く。育児休業を取得するだけでなく、母親が安心して育児できるよう、食事の世話や掃除、洗濯などを担うことが男性の役割であると理解する必要がある。母親を支えることまで含めて、男性が学ぶ機会を設けることが必要ではないか。育児休業制度が実際に機能すると良い。

委　員　　男女共同参画推進委員として、事業所における「くるみん認定」と「えるぼし認定」の状況を確認したい。今後の啓発活動にも活用したいため、認定を受けている事業所数を教えてほしい。

事務局　　回答のあった４２事業所のうち、「くるみん認定」は１事業所、「えるぼし認定」は０事業所であった。

委　員　　中高生アンケートや事業所アンケートから、以前と比べて女性が働きやすい職場が増え、男女がともに子育てや仕事を担うという意識も広がっていると感じる。一方、事業所アンケートで男女共同参画に関する取組が「特にない」とする企業もあり、企業側も意識を高め、就業規則などを含め男女差のない職場環境を整えることが重要である。自身の職場でも、育児期の女性が短時間勤務を活用し、社会とのつながりを保ちながら子育てと仕事を両立できるよう対応している。こうした環境づくりが大切である。女性の起業も増えており、子育て中に身につけた能力を生かして起業する人もいることから、女性が仕事を持ちやすい社会環境をさらに整えていく必要があると感じている。

事務局　　アンケートで把握した意見については、第３次プランにおける取り組みに反映していく。本プランの理念を共有しながら、実施計画では全庁的に男女共同参画の考えをもとに事業を実施していきたい。

委　員　　「くるみん認定」と「えるぼし認定」の違いが分からないため説明してほしい。また、家庭内の役割については、都市部と北杜市のような地域では事情が異なる。北杜市では草刈りや庭木の剪定、農作業など、男性が担っている仕事も多く、こうした負担についても考える必要がある。介護についても、以前は嫁が担うことが多かったが、現在は実の息子が親の通院などを担うケースも増えている。女性が働きやすい環境をつくることは重要だが、地域において男性が担っている役割や負担についても目を向ける必要がある。

事務局　　アンケートでは、家事分担の大きな傾向を確認し、さらに細かな内容については、推進委員会で検討してもよいと考えている。
「くるみんマーク」は、厚生労働大臣から認定を受けた子育てサポート企業を示すものであり、「えるぼしマーク」は女性活躍推進に関する取組が優良な企業を認定する制度である。

委　員　　事業所アンケートについて、回答した事業所の従業員規模は分かるが、回答しなかった事業所の規模などの属性が分かれば、回答事業所との違いを把握する上で参考になるのではないか。

事務局　　未回答事業所については、従業員１０人以上という対象条件は把握しているものの、詳細な従業員規模までは把握していない。

議事（３）第３次男女共同参画推進プラン素案について

事務局から資料３「第３次男女共同参画推進プラン素案」について説明。

（発信者）　（内容）

委　員　　中高生アンケートや事業所アンケートの結果が、素案のどの部分に反映されているのか、添付資料として考えているのか確認したい。

また、アンコンシャス・バイアスについては、言葉を「知っている」だけでは行動につながらないため、成果目標や取組内容について、意識する、行動につなげるといった一歩踏み込んだ内容を検討してほしい。

さらに、計画のＰＤＣＡに市民がどのように関わるのかについて、アンケートだけでなく対面で意見を聴く機会なども検討してはどうか。

事務局　　中高生、事業所アンケートの結果は、計画書の資料編にする予定で、現状と課題の整理にも反映している。アンコンシャス・バイアスについては、まず認知度を指標とすることを考えているが、さらに踏み込んだ成果目標が設定できるか検討する。ＰＤＣＡについては、計画最終年度に市民アンケートを実施し、男女共同参画の進捗を確認する予定であり、対面での意見聴取については今後検討したい。

委　員　　１０ページの推進計画１の地域活動については、自治会だけでなく、女性の起業やＮＰＯ活動など、多様な地域活動を含めて捉えた方がよい。

また、１９ページの女性が地域の意思決定に「参画したくない」という結果だけでなく、女性の意見が地域に反映されているか「分からない」とする回答が多く、女性が自治体活動を理解していなくて参加していない状況がある。複数の調査結果を組み合わせて分析すると、背景がより分かりやすくなる。

１２ページと１７ページのワーク・ライフ・バランスについては、そ

れぞれ家庭と仕事と職場のどちらを中心に扱うのか整理し、文章の重複や表現を見直した方がよい。

２１ページの女性就労については、M字カーブだけでなく、出産等を機に正規雇用から非正規雇用に移る「Ｌ字カーブ」の問題や、それが男女間賃金格差にもつながっていることを踏まえて、現状と課題の記述を充実させてはどうか。

２５ページでは、性的指向やジェンダーアイデンティティなど性の多様性に関する調査結果を踏まえ、記述を充実させてほしい。

２６ページの「アウトリーチ」は、山梨県や北杜市において具体的にどのような支援を指すのか整理する必要がある。

さらに、２７ページでは男性の更年期や心身の不調についての意見も多い。取り入れても良いのではないか。

２９ページでは、防災会議の委員の女性割合を増やすことは県でも難しいので、研修を行っている女性の地域防災リーダーを増やすとする方が良いのではないか。検討して欲しい。

事務局　　指摘された文章や施策について内容を整理し、可能なものは次回の素案に反映して改めて提示する。

委　員　　「誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり」に関連して、ＤＶやデートＤＶなどの暴力を防ぐためには、その根本にある相手を尊重する意識を幼少期から育てることが重要である。保育園、小学校、中学校、高校など、それぞれの発達段階で男女の付き合い方や自分と相手を大切にすることを学ぶ「性教育」を、計画の中に明確に位置付けてはどうか。また、家庭においても「協力する」だけでなく「助け合う」など、市民が具体的な行動をイメージできる表現にすると分かりやすい。

事務局　　「性教育」という言葉を具体的な取組として記載するか、より広く学校における教育・啓発として位置付けるかを含め、担当課とも調整し、次回の計画で示したい。

委　員　　学校での性教育については、児童・生徒の学年や発達段階に応じて伝え方を考える必要がある。教員だけでなく専門家とも連携しながら、子どもたちが正しく理解できる体制づくりが重要である。今後も学校現場と情報共有を行い、子どもたちが安全・安心に生活できるよう取り組んでいきたい。

４）その他

今後のスケジュール

第3回策定委員会　１１月１３日（金）　１０：００～

５）閉会

波木井副委員長よりあいさつ